

「弟と支援級」

座間市立栗原小学校 5年 鈴木千凰

私には、支援級に在せきする弟がいます。でも「弟は支援級。」と言うと、一部の人から「お前の弟は、バカなんだ。」と言われてたり、何か小さい声でヒソヒソ話されたりすることがあります。私は、支援級に通う弟をはずかしいと思ったことはありません。今年から、一緒に学校に通えてとてもうれしいです。

弟は発達におくれがあり、弟と同年代の子ができることも苦手とすることがあります。同年代の子は、自分の名前を書いたり字を書いたりするけど、弟は、まだ字を書くことができません。字を書く時は一緒に手をそえてあげて、字をなぞれるようにしてあげます。「上手に書けたね。」という、弟はにこにここと笑います。とてもがんばりやです。

弟の苦手とすることをせめるのではなく手伝ってあげたり助けたりしてあげればよいと思います。支援級の授業でも、できたね、がんばったねを大切にしてくれています。

だから「支援級」というだけで、悪く言わないでほしいです。私にとって一番つらいのは、弟に発達のおくれがあることではなく、「支援級」というだけで悪くいわれることです。弟のような発達におくれがある子が困っていること、苦手としていることに気づき、手伝ってあげられるような社会になってほしいです。

「福祉」という言葉の意味は、全ての人が幸せに生きることを願い、支援することだそうです。

障がいがある子を差別するのではなく障がいの事を少しでも知ってもらい、その考えやイメージを変えてもらいたいです。

いつか、すべての人たちが心のかべをのりこえて一つになれたらいいなと思います。

それが今の私の願いです。